

住まい・暮らし・文化

住む人の幸せに対応する 「スマートマスター」

業界が協働していくために

住宅は一つの業界だけの力で建てられるものではない。ZEH、IoT、AI、ビッグデータといったテクノロジーが進む現状では従来以上に複数の業界の知識が必要になる。環境問題や少子高齢化への対策として「スマートハウス」が求められているが、その性能や技術は正確に消費者に伝えられているだろうか。そこで注目を集めるのが一般財団法人家電製品協会の認定資格「スマートマスター」だ。この資格の意義や展望、業界の相互理解について、同協会認定センター長の森拓生に聞いた。

住まいと暮らしの両面

「スマートマスター」——「スマートマスター」を越えて、今年9月の試験を経て、有資格者は6000人に迫ります。——改めたスマートハウスの定義は、「住む人の幸せを追求して、自ら成長し続ける家」と定義されています。そして、エネルギー問題と少子高齢化に伴う課題を解決していくソリューションと位置付けられています。例えば、CO2排出に関する最大の問題は家庭部門。削減への意識は消費者の多くが共有しています。少子高齢化では、暮らしの場の改善が必要なのは言うまでもありません。

「住む人の幸せを追求して、自ら成長し続ける家」と定義されています。そして、エネルギー問題と少子高齢化に伴う課題を解決していくソリューションと位置付けられています。例えば、CO2排出に関する最大の問題は家庭部門。削減への意識は消費者の多くが共有しています。少子高齢化では、暮らしの場の改善が必要なのは言うまでもありません。

「住む人の幸せを追求して、自ら成長し続ける家」と定義されています。そして、エネルギー問題と少子高齢化に伴う課題を解決していくソリューションと位置付けられています。例えば、CO2排出に関する最大の問題は家庭部門。削減への意識は消費者の多くが共有しています。少子高齢化では、暮らしの場の改善が必要なのは言うまでもありません。

特別企画



認定センター長 森拓生

「スマートマスター」を越えて、今年9月の試験を経て、有資格者は6000人に迫ります。——改めたスマートハウスの定義は、「住む人の幸せを追求して、自ら成長し続ける家」と定義されています。そして、エネルギー問題と少子高齢化に伴う課題を解決していくソリューションと位置付けられています。例えば、CO2排出に関する最大の問題は家庭部門。削減への意識は消費者の多くが共有しています。少子高齢化では、暮らしの場の改善が必要なのは言うまでもありません。

「住む人の幸せを追求して、自ら成長し続ける家」と定義されています。そして、エネルギー問題と少子高齢化に伴う課題を解決していくソリューションと位置付けられています。例えば、CO2排出に関する最大の問題は家庭部門。削減への意識は消費者の多くが共有しています。少子高齢化では、暮らしの場の改善が必要なのは言うまでもありません。

「住む人の幸せを追求して、自ら成長し続ける家」と定義されています。そして、エネルギー問題と少子高齢化に伴う課題を解決していくソリューションと位置付けられています。例えば、CO2排出に関する最大の問題は家庭部門。削減への意識は消費者の多くが共有しています。少子高齢化では、暮らしの場の改善が必要なのは言うまでもありません。

各業界の相互理解が必要

業界の垣根を越えた取り組みが必要になる。「これからの時代は隣り合った業界同士がそれぞれの知識を共有し合う、そこから始めないと、お客様に対して適切なサービス提供が難しいのではないだろうか。つまり、住宅関係の方々も新しいインテリジェント化を生み出すテクノロジーと製品について基礎的な知識を持っていた

「これからの時代は隣り合った業界同士がそれぞれの知識を共有し合う、そこから始めないと、お客様に対して適切なサービス提供が難しいのではないだろうか。つまり、住宅関係の方々も新しいインテリジェント化を生み出すテクノロジーと製品について基礎的な知識を持っていた

最先端の資格

スマートマスターとは？

家電製品協会が16年に創設した「スマートマスター」と暮らしのスペシャリストを認定する資格。家の構造や性能、家電製品から住宅設備、エネルギーキーマネジメントまで技術や商品動向などを理解し、様々な製品やサービスが組み合わされる横断的な知識でスマートハウスの構築を支援する人材に与えられる。

16年9月の第1回認定試験では、3177人が受験し1603人が合格。18年9月の第5回試験を経て、有資格者は5663人になる。

また、家電製品協会認定センターのウェブサイトで、消費者に向けて「スマートマスターがいてのお店」(18年11月1日時点で全国948店舗・オフィスを紹介)しており、各店舗等でも「スマートマスターがいてのお店・オフィス」を明示した共通のステッカーのほりなどアピールを行っている。

更に発展著しいスマートハウスの最新動向に対応するため、資格取得後の継続学習の支援なども準備されている。

次回試験は来年3月

同資格の認定試験は毎年3月と9月に行われ、次回の開催は来年3月3日と6日の2日間(同内容)いずれか1日

協会が16年に創設した「スマートマスター」と暮らしのスペシャリストを認定する資格。家の構造や性能、家電製品から住宅設備、エネルギーキーマネジメントまで技術や商品動向などを理解し、様々な製品やサービスが組み合わされる横断的な知識でスマートハウスの構築を支援する人材に与えられる。

16年9月の第1回認定試験では、3177人が受験し1603人が合格。18年9月の第5回試験を経て、有資格者は5663人になる。

また、家電製品協会認定センターのウェブサイトで、消費者に向けて「スマートマスターがいてのお店」(18年11月1日時点で全国948店舗・オフィスを紹介)しており、各店舗等でも「スマートマスターがいてのお店・オフィス」を明示した共通のステッカーのほりなどアピールを行っている。

更に発展著しいスマートハウスの最新動向に対応するため、資格取得後の継続学習の支援なども準備されている。

次回試験は来年3月

同資格の認定試験は毎年3月と9月に行われ、次回の開催は来年3月3日と6日の2日間(同内容)いずれか1日

スマートマスター資格の取得を目指す方にとっての必須本「スマートハウスの基礎」の他では、省エネやZEHに関する建築関係の知識や情報・フォーラムに即する実践的な知識、エネルギーマネジメントシステム(EMS)と各種設備・空調との協働的な運用など。

スマートマスターは、住まいと暮らしのスペシャリスト。スマートマスターは、住まいと暮らしのスペシャリスト。スマートマスターは、住まいと暮らしのスペシャリスト。

「スマートマスター」テキスト表紙。消費者に説明しやすい内容で好評を博す。

一般財団法人 家電製品協会

73年12月に発足。12年4月に一般財団法人に移行。現在、パナソニックの長楽周作会長が理事長を務め、家電製品に関連する29社・11団体が所属する家電製品の業界団体。

家電製品の共通マークの作成や製品に起因するトラブルの仲裁・調停、人材の育成や各種資格の認定など、業界横断的な事業に加え、個々の企業では解決が難しい諸問題への対応などを行っている。

認定センター

同協会の認定している資格「家電製品エンジニア」「家電製品アドバイザー」「スマートマスター」の育成カリキュラムや学習テキストの提供、認定試験の実施などの事業を行う事務局。特に「家電製品エンジニア」は戦後間もない「ラジオ受信機修理技術者検定」時代から数えて60年以上の歴史を持つ。「家電製品アドバイザー」と共に、最上級レベルの証明として「エグゼクティブ等級」を導入しており、業界変革期の人材育成を促している。

問い合わせ：03-6741-5609

https://www.aeha.or.jp./nintei-center/